

WHO 西太平洋地域事務局－国立保健医療科学院共催
「医療の質・患者安全を推進するワークショップ」
ACCELERATING HEALTH-CARE QUALITY AND SAFETY IMPROVEMENT IN
TRANSITIONAL ECONOMY MEMBER STATES – COLLABORATIVE WORKSHOP 3
(2019年3月26日～3月28日)

1. 本研修の概要

西太平洋地域の経済移行期にある5カ国を対象に、医療の質・患者安全の向上を推進することを目的として、3月26日から3月28日までの日程で、WHO西太平洋地域事務局(WHO/WPRO)との共同開催にてワークショップ3を実施した。当該ワークショップは、この約半年間に実施された2回のワークショップで計画・実施してきた活動の最終的な成果報告と、関連するテーマについて更なる学びを深めて今後の取り組みを検討する機会であった。

2. 実施方法

研修対象者とWHO職員の他に米国、シンガポール、そしてマレーシアから関連分野の専門家も招聘された。日本からはWHO協力センターである国立国際医療研究センター(NCGM)(野田信一郎先生)、そして山梨大学医学部附属病院(荒神裕之先生)、日本医療機能評価機構(脇坂直宏氏、平田彰朗氏)にもご協力を頂いた。各国からのこれまでの取り組みの発表の他に、「チームトレーニング」「ガバナンス」「病院の第三者評価」「コンフリクト・マネジメント」「患者安全報告システム」「病院のパフォーマンス指標」について、講義と意見交換、演習を行った。WHO本部から患者安全のコンサルタント(Dr Irina Papieva)も来日して、患者安全のグローバルな活動についても講義があった。これらの議論を通じて理解を深め、次の1年間の取り組みを計画し、発表する機会とした。

3. 参加者

今年は5カ国(カンボジア、中国、モンゴル、ラオス、ベトナム)から20人(保健省などの行政官、医療の質・患者安全の病院担当者など)、専門家など約30人が参加した。

【研修風景】

